



1ねんに365のたんじょう日プレゼントを
もらったベンジャミンのおはなし

ジュディ・バレット さく ロン・バレット え
まつおか きょうこ やく

偕成社 1978年 1470円

37ページ 27×20cm

9歳の誕生日パーティーが終わったベンジャミンは、とたんに寂しくなりました。次の誕生日まで、あと365日も待たなければなりません。プレゼントの包みを開ける時のワクワクした気持ちも、次の誕生日まではお預けです。そこでベンジャミンは、もらったプレゼントをもう一度包みなおして、自分にプレゼントすることにしました。それが終わると、次は家の中のものを順番に包んでいきました。

365回の誕生日プレゼント、という子どもたちの夢と同時に、アイディアと工夫次第で生活はもっと楽しくなることを、ユーモラスに教えてくれる絵本です。



いつかはきっと…



シャーロット・ソロトフ ぶん

アーノルド・ローベル え

やがわ すみこ やく

ほるぶ出版 1975年 945円

32ページ 16×22cm

「いつかは ね いつかは きっと そうなるんだわ…」。ちいさな女の子が、自分の夢を幸せそうに語ります。それは、「お兄ちゃんが、お友達に紹介してくれるの。『うちのちびさ』なんて言わずに『ほくの妹です』って。」
「家の中を歩きまわっていると、見たこともない部屋が見つかる！」というように、大人からすれば、たわいなかったり、突拍子もないものばかりです。でも、自分の子ども時代を思い出してみてください。この女の子のような望みや憧れを、誰もが持っていたはずです。この絵本では、そんな夢の数々を、子どもの目線と大人のあたたかなまなざしで、見事に描いています。最後の女の子の台詞も、ユーモアが効いていて思わずほほえんでしまいます。

